

弘濟寺がわふ版

第99号

令和4年9月 発行

弘濟寺 玉野千永編集

弘西寺131 0465(04)1717

弘濟密寺 棟素

心雄ペダル

洒水の滝方面



朝晩は涼しくなりましたが、昼間は30度超えの暑さなので、涼しい所へ行きたい。そうだ「洒水の滝」へ行こう。大河「鎌倉殿の13人」ブームに便乗して頼朝が富士の巻狩りで通ったといわれる、足柄古道経由で向かいました。

大河繋がりでいうと洒水の滝は文覚上人ゆかりの地でもあるんですって。文覚上人は「鎌倉殿の13人」で市川猿之助さんが演じていて、頼朝のお父さんの髑髏を首にかけ、なんとも恐ろしい姿で第13話に登場しました。インパクトが強すぎて映像は覚えていますが、文覚上人って一体どんな人なの？ 滝への途中にある旅館文覚荘に立ち寄りしました。そこで「文覚上人の一代記(鈴木治平著)」を見せていただきお話を伺いました。その冊子には、「この洒水の滝で百日間の修行を積んだ事、出家したいきさつや、お坊さんっぽくない興味深い内容が書かれています。(お寺に冊子のコピーあります。)



文覚上人(市川猿之助)

ある旅館文覚荘に立ち寄りしました。そこで「文覚上人の一代記(鈴木治平著)」を見せていただきお話を伺いました。その冊子には、「この洒水の滝で百日間の修行を積んだ事、出家したいきさつや、お坊さんっぽくない興味深い内容が書かれています。(お寺に冊子のコピーあります。)

歴史に触れた後、滝に向かう途中で心雄が「ところで、洒水の滝の「洒」は「酒」ではないの知ってる?」「洒水」は浄水を散らして、その場を浄める仏教用語なんだよ。法要のときに、お導師さまがカンカンってハリー・ポッターの魔法の杖みたいな散杖さんじょうを使って水を振るの、見たことあるでしょ?」大黒「知ってる知ってる。じゃあさ、洒水の滝は、滝の上から、このあたり全体をシャッシュアツって清めてくれている感じだね。」心雄「・・・というか、文覚上人ゆかりの地だからじゃないかな?」と教えてく



文覚上人一代記

れました。心雄の話を聞いているうちに今年4月に完成した226段の観瀑台へ続く階段に着きました。久しぶりの自転車、私はガクガクの足でしたが心雄は、スタスタと登って行きました。登り切ると観瀑台の上はひんやりとしていて、超気持ちいい。両手を広げてたっぷりとマイナスイオンを吸い込みました。たくさんの階段を登ったご褒美ですね。帰り道で飲んだ湧き水の味が忘れられません。何度も行っている「洒水の滝」でしたが、夏の暑さで疲れた身体を癒すには最高の場所なうえ、地元の歴史も学べ、心雄ペダルを十分満喫できました。



元気に手を振る
大黒と心雄



かんぱくだい 観瀑台から見える滝

洒水の滝は、僕が小さい頃、祖父によく連れてきてもらいました。誕生日に買ってもらった小さい自転車を車に積んでもらって、滝の下までの砂利道を、今思うと無茶を言って自転車で登ったことを思い出しました。



寺かん

●ヨガ教室●

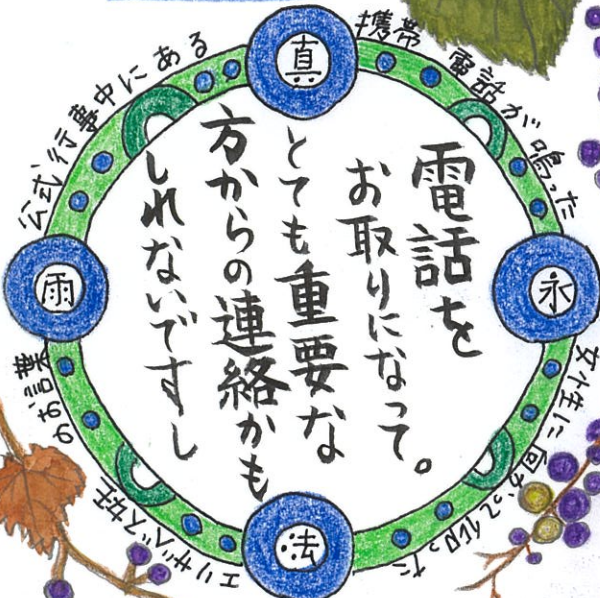
- 毎週水曜日 10時～
- 弘濟寺 本堂にて
- 1回 1000円

※ 10/5、11/16はお休みです

●タピオン教室●

- 11月9日 13時30分～
- 12月14日
- 弘濟寺 客殿にて
- 1回 1000円

10月12日
ありあろ!!



お地蔵さん修復日記

台座（蓮華座）解体作業にはいりました。ひっくり返して、花びら（蓮弁）を一枚ずつ外して解体します。一枚一枚、銅の釘や竹の釘で固定されています。形がみんな違うため、きちんともとに戻せるように、何段目の何番などそれぞれに墨書してあるそうです。



外された花びら



蓮華座の下、^{墨書}部分からは墨書
「僧正政 ■ 京大佛師 渡部久清」
「宝暦四年（1754）亥二月吉」

が発見されました。当初よりお地蔵さん修理に関わってくださっている山本勉先生に鑑定していただくと、江戸時代末に小田原を中心に活躍していた仏師渡辺久清の先代にあたる仏師 **掘木写真** ではないか？ということがわかりました。



江戸時代の虫の羽！

取り外した花びらは丁寧にクリーニングします。クリーニング中に虫が発見されたと聞き、ドキッとしましたが、前回の修理者が虫に気づかず、虫の上から塗料が塗られてしまったのでは？？？ということでした。

編集後記

先月号で紹介した盆棚の飾り方の感想がたくさん寄せられました。「新盆で、正直飾り方がわからず、大変たすかりました。」「いままで飾っていた通りでしたが、細かい意味が書いてありわかりやすかったです。」「今年初めてみずのこをお供えしました。それとご住職のフェイスブックに15日は仏さんがお弁当を持って小田原へ行くと書いてあったので、祖母に聞いてみたらうちは横浜でした。おにぎりを作ったりお小遣いをおいたりして、いつものお盆よりご先祖さまが近く感じられました。」などなど、みなさん工夫してお盆を迎えられたようで良かったです。さて、かわら版も気づけば99号となりました。毎号手書きで頑張っておりましたが、編集に時間がかかりすぎてしまうので、パソコンでの編集を新たに取り入れて手書きと併用して編集することにしました。これからはみなさまに楽しく読んでいただける紙面作りに励んでまいります。皆様からのご意見、ご感想もどしどしお寄せください。いつも読んでいただきありがとうございます。

タブノキは魂が宿る木と考えられていて、「霊（たま）の木」と呼ばれたことが由来して「タブノキ」となったそうです。車を停めたらちよっと見上げてみてください。



この木



「お大黒さん、境内にタブの木があるのをご存知？」お檀家さんが来られて尋ねられた。「タブ？？」彼女が植物の専門家、大学の教授をされている。タブの木がある場所を案内していただく、駐車場奥のドングリの木の隣にあるのが、タブの木だそう。別に面白くない、ただの木である。そんな私の気持ちを探したのか「この木は春が面白いのよ。春になると赤い新芽がとても綺麗なの」そう話すSさんのお顔はいきいきと輝いている。「粘性のあるタブの木の皮はお線香を作るときに繋ぎの役目で使われるんですって。（昔はこの樹皮とスギの葉を粉末にして固めてお線香を作っていたそうです）」タブの花言葉が（鎮魂、鎮守）というのも、お寺に植えられている由縁かもしれないわね」本当にお詳しい。お寺にこの木を植えた方の気持ちが感じられますね。

花と木と草のこと

レストラン マジェール

★法事用特別コース
4,000円
4名様より（個室完備）

☎ 82-0335

開成町宮台63（シャトレーゼ向い）



ご贈答品のご用命は

足柄ハリカ

南足柄市飯沢 51-4 火曜定休日
TEL (0465) 74-5221

勝又

南足柄市飯沢 12-10

☎ (0465) 74-2306